

# HCIとバックアップの最新動向：“運用が楽になるから、次はハイパーコンバージドインフラ”

今日、企業の中でどれぐらいハイパーコンバージドインフラは浸透しているのか。選ぶとしたらどのベンダー製品なのか。大規模な市場調査はいくつも発表されているが、対象範囲が広すぎて今一つ実感が湧かないというのが本音で、ほんとうに知りたいのは身近な企業の動向ではないだろうか。

2019年1月、arcserve Japan合同会社が「HCI環境のバックアップ導入・提案に対する実態調査」を実施。その結果、情報システム関連業務に携わる人々の間でHCIへのマインドシフトが進みつつあり、日々のバックアップ運用に課題を抱える中、次のシステム移行先としてHCIを含む仮想化環境やクラウドに期待を寄せていることが判明した。

## 伸び続けるHCI市場、情報システム担当者の意識はどう変化しているか

ハイパーコンバージドインフラ（以下、HCI）の存在感が増しつつある。コンパクトな筐体にシステムインフラの必須コンポーネントが集約されており、要求に応じてリソースを追加すれば簡単に拡張可能。こうした特長から、投資対効果を最大化したいデータセンター事業者のみならず、運用管理の最適化やシステム導入/構築のスピード化を考える企業にも歓迎されている。調査機関の中には、国内HCI市場はこの先2020年以降も倍々成長を続けると予想しているところもある。そろそろ日常的なHCI活用を視野に入れて、運用管理体系を構想する時期に来ていると言えそうだ。

こうした中であって、企業はHCIにおけるバックアップ運用をどのように考えているだろうか。arcserve Japan合同会社（以下、Arcserve Japan）では、2019年1月、同社メールマガジン読者を対象に、「HCI環境のバックアップ導入・提案に対する実態調査」を実施した。その結果、企業がHCI環境に期待しているのは業務生産性の向上であり、現状のバックアップ運用現場はデータ爆発に起因した懸念を抱いており、今後のシステム移行先として、HCIを含む仮想化環境やクラウドを志向していることが判明した。本稿はその回答を考察した結果である。

## 盤石の強みを見せるVMware、あとはまだ二転、三転の可能性

「HCI環境のバックアップ導入・提案に対する実態調査」は、Arcserveのエンドユーザを中心とした利用者、パートナー等を対象として2019年1月に実施され、計824名より有効回答が寄せられた。回答者の属性を見ると、「SE」が60%と6割を占める。続いて「営業」14.81%、「設計」7.7%となっている。「その他」が19.5%と比較的割合が高いが、具体的な内容として「情報システム」や「システム企画・運用」「インフラ担当」などが挙がっており、何らかの形で情報システム関連業務に携わっている回答者が多かった。

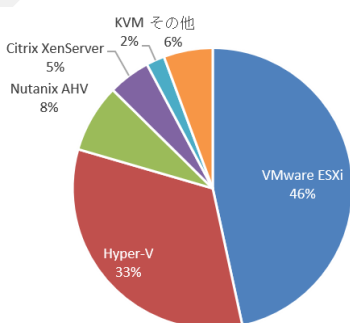


図1 優先して検討したいHCIハイパーバイザー

最初に尋ねたのは、HCIの制御プログラムハイパーバイザーの選好度である。もし今後HCIを導入するとしたら、どのベンダーを選ぶか（複数回答可）。その結果を表したのが図1で、1位が「VMware ESXi」で63.96%で、2位が「Hyper-V」で45.15%、3位が「Nutanix AHV（Acropolis Hypervisor）」で10.8%と興味深い結果となった。

アナリスト機関などの調査では、「VMware ESXi」「Nutanix AHV（Acropolis Hypervisor）」がツートップに挙がる。今回の調査で「Hyper-V」の選好度が高いのは、回答者のシステムインフラ環境がマイクロソフト製品と親和性が高いためではないか。新規テクノロジーにも既存投資を活かしながら取り組もうとしている回答者の傾向が見てとれる。



それでは、HCI全体としての選好度はどうか（複数回答可）。結果は図2のとおりで、1位が「VMware vSAN（vSAN Ready Nodes）」で54.98%を獲得。以下、2位「Nutanix（NX、Dell XC、Lenovo HX、Software Choice）」26.46%、3位「HPE SimpliVity 20.63%」と続く。

質問の「ソリューション」という用語は「HCIソフトウェアベンダー」という意味合いで尋ねた。ここでは順当にというべきか、「VMware」が過半数を占める強さを示している。しかし、続くベンダー間の差は10ポイント以下とそれほど大きな差は開いておらず、まだこの先二転、三転がありそうだ。

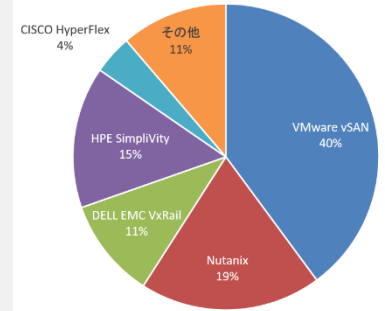


図2 優先して検討したいHCIソリューション

## ハイパーバイザー選びは、価格より性能より生産性

ハイパーバイザーを検討する際に重要視する点も興味深いところだ（図3）。生産性・メンテナンス性の高さ

最もポイントを集めたのは、「生産性・メンテナンス性の高さ」（31.19%）だった。ついで「価格」（17.48%）、「導入実績」（17.11%）と続く。逆に「性能」は7.77%にとどまった。回答者がHCIハイパーバイザー選定で何より重視しているのは、運用管理上の業務効率で、それは価格や性能などより比重が重い。“手間のかかる仕事が増えるのはいやだ”という運用担当者の心の声が聞こえてくるようだ。

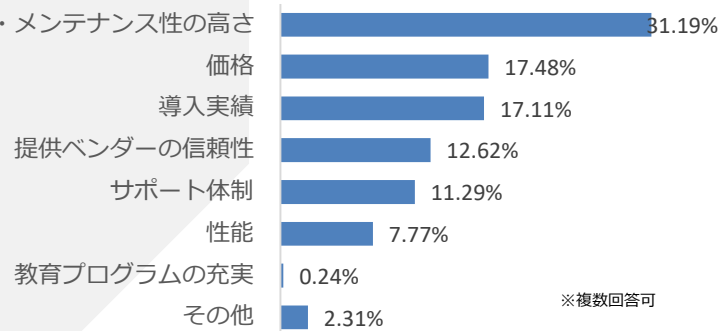


図3 ハイパーバイザー検討で重要視する点

## データ爆発やBCP対策で懸念を抱えるバックアップ運用現場

今度は角度を変えて、日常のバックアップ運用に関する現場の悩みを探ってみた。「バックアップに関するお客様のお悩みや課題はどのような点でしょうか？（複数回答可）」と尋ねたところ、回答の多い順に上位3つは「バックアップ対象のデータ容量の増加」（36.77%）、「リストア/リカバリを実施したことが無く、障害発生時に戻せるか不安」（18.57%）、「バックアップが時間内に終わらない」（16.14%）となった（図4）。

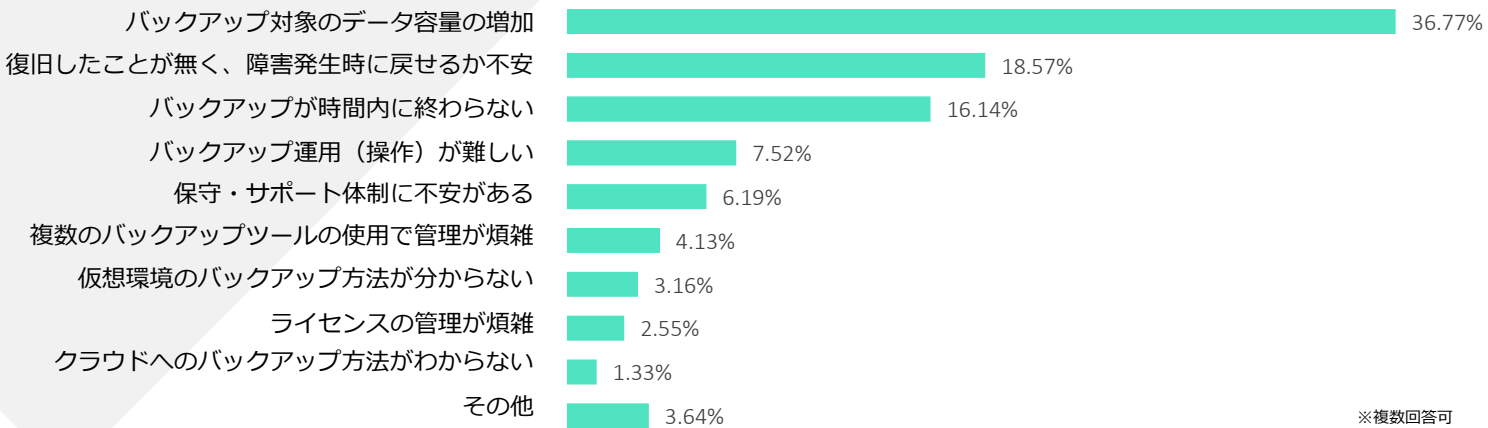


図4 日常のバックアップ運用における課題

業務データに静止画、動画などが加わるようになり、それらが大容量化していることは以前から指摘されているが、昨今はまたIoT時代に突入し、各種センサーデータなども大量も取得できるようになった。それらは当然のごとくバックアップ対象に加わるわけで、差分データに限ってもテラバイト級、というのはもう特殊なケースではない。これまでのように限られた夜間をバックアップタイムとしていたのでは、就業時間までにジョブが終了しなくなり、バックデータデータが取得できない潜在リスクを高めているバックアップ運用の現場が目につく。

また、このところ日本で頻繁に発生している大規模災害により、企業の間ではBCP対策強化の現実味が増している。“いざというときに遅滞なくシステム復旧できるのか”と、担当者は常に精神的ストレスを抱えているのだ。



それでは、もし現在のバックアップ環境がオンプレミスであった場合、次の移行先はどのような環境が望ましいか（複数回答可）。この問いに対する回答を示したものが図5だ。

マジョリティは「仮想化環境（HCI含む）」（50.49%）と「クラウド」（46%）で、ポイントもほぼ拮抗している。今回の調査で見ると、”クラウドファースト”はもう意識の上で現実となっているようだ。その一方で、「オンプレミスを続ける」との意見も一定数存在した（39.08%）。何らかの理由で仮想化やクラウド移行できないシステムというの、“ロングテール”的に残っていくのだろうか。

## Windows Server2008 EOSが迫るも、思うように上がらない企業の“腰”

2020年1月、Windows Server 2008/2008 R2の延長サポートが終了（以下、EOS）する。これでマイクロソフトからのサポートは完全に終了することになるが、これに起因したシステム移行計画について尋ねた結果が図6だ。ここでは企業の鈍い動きが観察できる。

すでに計画済みとして「はい」と回答した割合（42.72%）より、「検討・企画段階」（39.2%）と「いいえ（これから着手）」（18.57%）を合わせた割合（57.77%）の方が高い。現時点でEOSまですでに1年を切った。移行に要する期間はシステム規模や難易度によって異なるため一概にはいえないが、それでも若干遅れ気味なのではないだろうか。ただ、単純なシステム移行は企業にとって付加価値を見出しにくい領域といわれており、担当者も経営層を納得させるだけの“大義名分探し”に苦慮しているのかもしれない。

## 結果を次の計画に繋げ、最良の選択をするために

これまで、「HCI環境のバックアップ導入・提案に対する実態調査」をベースに、Arcserve Japanメールマガジン読者のHCI環境に対する意識やバックアップ運用の現状、システム移行の意向などを見てきた。情報システム関連業務に携わる人々が、すでにHCIに関する情報収集や事前調査を済ませ、自社システムの次期構想を思い描く様子が浮かびあがるとともに、既存システムのバックアップ運用に恒常的な課題が存在することも明らかになった。夢を描いているのも、悩みを抱えているのも、御社だけではなかったのだ。これはシステム担当者にとって、一つの安心材料になるのではないだろうか。もちろん、安心しただけでは意味がなく、これを次のアクションにつなげていく必要がある。今回の調査結果の何か一点でも、そのための気づきや裏付けデータになれば幸甚だ。

Arcserveシリーズの詳細は、[www.Arcserve.com/jp](http://www.Arcserve.com/jp) にアクセスください。  
 Arcserveシリーズの30日間無償トライアル：<https://www.arcserve.com/jp/free-trial-selection/>  
 Arcserveシリーズの実機によるトレーニング：<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/seminar/>  
 製品ご購入前のお問い合わせ：Arcserve ジャパン ダイレクト

TEL: 0120-410-116 [JapanDirect@Arcserve.com](mailto:JapanDirect@Arcserve.com)

ホワイトペーパー

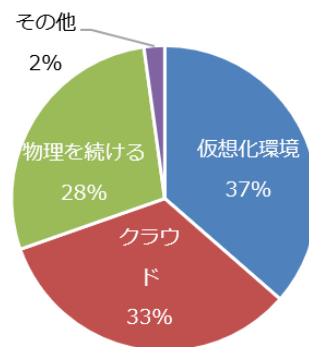


図5 検討したいオンプレミスシステムの移行先

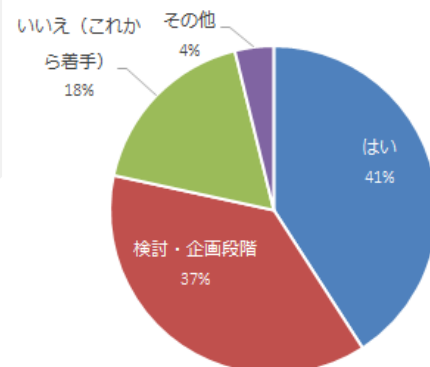


図6 Windows Server 2008/2008 R2 EOSに伴う移行計画の有無

